



# さんだワイズメンクラブ

さんだワイズメンズクラブ

〒669-1512

三田市高次 2-11-16

安行英文

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

No.29-1 July 2021

会長主題:『意識を喚起し、進んで行動を』 「Create Awareness Take Action」

国際主題:『世界とともにワイズメン』

“Y's Men with the World”

『愛と尊厳で世界を癒そう』

アジア主題『100年を越えて変革しよう』

“Make a difference beyond the 100th”

西日本区主題:『羽ばたこう』

六甲部主題: 寄り添い、分かち合い～『三方よしで、みんな笑顔』

Snuggle up and share with you

～”Smile on each side”～

会長: 安行 英文  
副会長: 竹内 一夫  
書記: 松本 美耶子  
会計: 安行 暁子  
会計監査: 竹内 路子  
担当主事: 齊藤 靖  
ブリテン: 松本 文男

## 7月の例会

◆7月第1例会 7月15日(木)

キックオフ例会

11:00 集合 丹波篠山市福住で草抜き  
協議

- ① 六甲部部報について
- ② その他

報告

会長 YMCA

誕生日のお祝い

◆7月第2例会 7月28日(水)

19:00～ 安行邸

## 今後の予定

◆8月第1例会 8月4日(水)  
安行邸 19:00～

◆8月第2例会 8月25日(水)  
19:00～

6月のデータ(在籍者 8名)  
出席 メン7名 出席率 87.5%  
ニコニコファンド 0円

累計 33380円

## 今月の聖句

「勇気を出しなさい」

(ヨハネによる福音書 16章 33節)

♥ 誕生日おめでとうございます。♥

7月13日 竹内 一夫メン

7月15日 清水 浩一メン

今年度の部としての事業は実質、コロナ蔓延のため、大部分の行事は中止といたしました。

また、大きな判断としては、部費の免除を早々に決定、疲弊した YMCA 支援のために総額 400 万円超の支援を各クラブとともに行いました。また各クラブも継続して YMCA や学生支援を行っています。

世界的感染流行は歴史を書き換えるのではなく、加速させるだろう。パンデミック後の世界は、多くの面で既知としてある世界をよりスピードアップして変わっていくだろう。国によって、企業によって、ワイズのような団体によって、そしてとりわけ個人によって異なるものになるだろう。決して前と同じには戻らない。異例で困難な試練を経験すれば、苦勞の果てにこそ得られるものがあると新たな機会を期待して乗り越えていくしかないのだろうか。

そう考えると、今の YMCA やワイズの置かれている状況は全く変わってくるものと考えるのが妥当な考えだろうと思われます。昨年からの状況を見ると、このパンデミックが始まった初期にはどうにかこうにか苦勞しながらも乗り切れる希望を抱いていたが、それは徐々に単なる希望となしてきたように思われます。そうならないためにも、21 年は明るい兆しが見える年としたいと願うばかりです。

ワイズメンズクラブにあっては、第一義には YMCA の支援をどのようなもので、継続的な支援ができるのかを色々と模索しながらも、素早い行動を起こさないと、Y 自体が持たないと思われます。それに伴って、各クラブは活動に制限を受けながらの非常に狭い領域で動かなければならないことは、何かもどかしさを感じずにはいられない雰囲気です。

そのような中で、昨年からの六甲部各クラブ会長とパートナーシップ委員会合同の YMCA 総主事を含め、担当者の方々と定期的に会合を持っています。状況が常に変わる中で、我々ワイズメンはどのように YMCA を支えていくのか、情報を交換し、出来得る支援を話し合う会議になっています。

新たな会員増強もあり、各クラブの活性化につながっているのも大きな収穫でした。

最後に、いろいろな面でお支えいただいたキャビネットの皆様には心からの感謝を申し上げます。御礼にかえさせていただきます。

有難うございました。

## 5 学生生活支援募金 ご協力への感謝

2021 年 6 月 8 日

神戸 YMCA 総主事 井上 真二  
神戸 YMCA 専門学校 神戸 YMCA 高等学校  
校長 松田 道子

主の御名を賛美いたします。

平素は、神戸 YMCA 諸活動へのさまざまなご支援、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染の拡大を受けて、神戸 YMCA 学院専門学校、神戸 YMCA 高等学院は 2020 年 6 月 1 日より、学生生活が困難となっている学生・生徒支援のため、「ポジティブネット学生生活支援募金」を開始いたしました。この学生生活支援募金に対しご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

多くの個人、団体の皆様からのご支援により、3,043,000 円(2021 年 3 月 31 日現在)もの募金を賜りました。昨年度はこの募金を原資として、2020 年 6 月 16 日より学生・生徒延べ 206 名に対して、オンライン授業受講環境整備支援金給付(163 名 3,260,000 円)、又、家計急変等支援金給付(43 名 1,230,000 円)を行うことができました。

神戸 YMCA では、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、私だけではない、いま困っている誰かのために「神戸 YMCA ポジティブネット募金」活動に取り組んでまいりました。新型コロナ

ナウウイルスは収束の兆しが見えず、いまもなお 3 回目の緊急事態宣言発令、そしてその期間も再々延長と、学生・生徒の貴重な学びや体験の機会を減少させております。とりわけ神戸 YMCA 学院専門学校日本語学科に入学を希望する学生は度重なる母国のロックダウン、また入国制限で来日ができず、オンライン授業での参加を余儀なくされています。コロナ禍においては、アルバイトで生計を立てている学生たちの窮状があります。厳しい環境下にある学生・生徒に対して、学費納入の期日延期に応えつつ、食料品や生活用品他生活を支援する取り組みを継続して行ってまいります。

「神戸 YMCA ポジティブネット募金」は緊急支援募金としての期間は終了いたしましたが、コロナの影響を受ける学生・生徒のために募金を継続して受け付けております。

いつも当会の留学生たちを気に留めていただき、お支えを賜りまして、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。「誰もが公正に夢をかなえるチャンスのある地域社会の創造を」。特に、未来をつくることもとユースのために、引き続きご支援、ご鞭撻をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

皆様の上に豊かな祝福があり、同時に世界また日本に真の平和が来ることを願います。

～新年度スタートにちなんで～

2021-2022 さんだクラブ会長 安行 英文

意識を喚起し、進んで行動を

Create Awareness Take Action

前年度、少ないクラブ会員のもと一丸となって部キャビネットの大役を担っていただき、クラブの充実がより進んだと考えます。

また、組織全体にかかわる部や西日本区の在り方もワイズにかかわることに縁ってより鮮明に課題や可能性が見えたことも糧のひとつだと考えます。

今年、一年、新たな取り組みとして、YMCA に学ぶ外国人留学生たちへの交流と支援がクラブの活動に力と魅力を与えてくれると確信しています。

今一度心を奮い立たせて、コロナ禍でできなかった従来のクラブ活動、バレンタインコンサートやかるがも園支援について今年こそはさんだクラブの活動を再開させる年度としたい。

それとともに、より充実したクラブ会員の親睦と交流も併せて従来以上に行いたい。

皆様、一年間よろしく願いいたします。

## 2021年6月第1例会報告

日 時:6月9日(水)

さんだクラブの例会に次期六甲部担当神戸ポートクラブキャビネットが

参入の形で引き継ぎ会(Zoom)を開催 19:00~20:10

さんだクラブメンバーは安行邸に集合

※6月10日水野次期六甲部書記より記録配信あり

その後さんだクラブは21:00まで例会を開催

出席者:安行英文、竹内一夫・路子、松本文男・美耶子、齊藤 靖

〈報告事項〉

・六甲部会計監査に関して、現時点で大田監査より返信がないので、もう一度部長より依頼

※6月13日 竹内会計より大田監査に資料一式送付

6月19日 会計監査報告受領

- 6月5日(土)・6(日)の西日本区大会に、それぞれ日帰りで安行部長出席  
JWF(西日本ワイズ基金)より300万円
- チャリティゴルフは六甲部交流事業なので会計報告に記載あった方がよい  
→六甲部会計決算報告書(案)欄外に記載する(竹内会計)
- 六甲部ホームページ料は24,000円(@3,000)
- さんだクラブ次期役員の確認

## 〈配信〉

### 六甲部

- 6/7 次期六甲部第1回評議会案内及び資料作成のお願い
- 6/15 新旧六甲部キャビネット引継ぎ会記録再送
- 6/16 神戸YMCA(6/26)大会のご案内(第二報)

### 西日本区

- 6/7 西日本区 表彰・顕彰一覧
- 6/10 Y'S SONG FEST PROJECTの案内
- 6/15 地域・環境事業通信 第2号

## 今月の聖句解説

「勇気を出しなさい」

(ヨハネによる福音書 16章33節)

今月の聖句は、十字架の死を直前にしたイエスが、残される弟子たちに対して語った言葉の一部です。イエスがそこで何を語ったかと言えば、あなたがたにはこれから苦難があるだろう、ということでした。信仰を持って生きる者が、なぜそんな経験をしなければならないのか。弟子たちはそのように思ったのではないのでしょうか。それは何よりもイエス自身もまた、自ら経験する思いでもあったのです。しかしイエスはそれでも、その苦難を受け入れることができました。それは、「私はひとりではない。神が共にいてくださるからだ」という希望を持っていたからです。そのイエスが、残されていく人々に対して語ったのがこの言葉でした。苦難の中にあつたイエスには神が共にいてくださった。そのことに、世々の教会の人々は自分たちの苦難を重ねました。自分たちの苦しみは、イエスの受けた苦難と同じものだ。そうであれば、苦難がなくなることはないかもしれないけれども、しかし苦難によって私たちが滅びることもない。なぜなら復活のキリストが共にいて、この苦しみや悲しみや痛みをすべて知っていてくださるからだ。そんな希望の確信に支えられて、勇気を出して歩むことができたのです。

どんなに信仰に篤く、敬虔で熱心であっても、この世に生きている限り、私たちは絶えず新たな苦しみを経験します。試練は襲ってきます。悲しみが尽きることはありません。体も心も傷つき、痛むでしょう。しかしその私たちに、神が、イエス・キリストが確かに共にいてくださる。どのようなときにも、この私の傍らにいてくださる。だから私たちもまた、苦難の中にありながら、しかしそれでも勇気を出せるのです。

摂津三田教会 牧師 西脇正之